

## 「お弁当の日」の実施

### 1 目的

食事について親子で共に考える機会を創出し、子どもたちの食への関心を高め、感謝の心を育むことなどを目的として、学校と家庭との連携のもと全校で実施し、小中学校の9年間を通して、自分の健康を考え、判断し、実践できる子どもを育成する。

### 2 学年別のねらい

《学年のねらいと保護者のかかわり》

学年	ねらい
小学校 1～2年生	保護者と一緒に献立を考え、買物に行くことを通して、食材について関心をもてるようにするとともに、家族への感謝の気持ちを育てる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 食べ物の名前を知る。</li><li>・ 残さず食べる。</li><li>・ お弁当を作ってくれる人に感謝する。</li></ul>
小学校 3～4年生	保護者と一緒に献立を考え食材を購入することを通して、食事について関心をもてるようにするとともに、家族への感謝の気持ちを育てる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ お弁当につめる。</li><li>・ いろいろな料理，地域の食材が分かる。</li><li>・ お弁当を作ってくれる人に感謝する。</li></ul>
小学校 5～6年生	保護者と一緒にバランスのよい献立を考え、食材を購入したり一緒に作ったりすることを通して、食事にかかわる人への感謝の気持ちを育てる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 食品の安全，衛生について考える。</li><li>・ 栄養バランスを考えて献立を立てる。</li><li>・ 1品でも自分で調理する。</li></ul>
中学生 1～3年生	栄養バランスや調理方法を考え、自分の身体を考えて、自分で作ろうとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中学生に必要な栄養素について理解し，調理する。</li><li>・ 感謝の心をもって無駄なく使い切る。</li></ul>

### 3 実施方法

#### (1) 実施日

10月以降に、最低年1回以上を実施する。

- \* 本市では、第3日曜日を「家庭の日」、「地産地消の日」として位置付けていることから、家族と一緒に地域の食材を活用したお弁当の献立を考える機会とし、第3日曜日を「お弁当の日」として実施する。

#### (2) 実施内容

家庭科等の教科、学級活動、学校行事（歓迎会、収穫祭等）などに関連させて計画的に実施する。

- \* 子どもへの指導や保護者に対する説明については、別添資料を参考に各学年に応じて行い、食育の観点から「お弁当の日」が実施できるようにする。
- \* 「振り返りカード」を活用し、次年度につなげるようにする。

#### 【参考：取組例】

- ・ 教職員間で共通理解を図り、実施方法について検討する。
- ・ 保護者に「お弁当の日」についての通知を出す。
- ・ 計画カード、振り返りカードを検討して、児童生徒に配布する。
- ・ 家庭科や学級活動で子どもたちに栄養バランスやお弁当のメニューについて指導する。
- ・ 給食の時間にテレビを活用し、一斉に事前指導を行う。
- ・ 学年ごとにお弁当づくりの課題（旬・地元の食材を使ったお弁当など）を決め、食育の指導にあたる。
- ・ 「お弁当の日」を題材とした啓発ポスターを作成する。
- ・ 個別対応を実施する。
  - ⇒ お弁当メニューの相談
  - ⇒ 授産施設等への趣旨説明 など
- ・ 地域学校園で一斉に実施するため、栄養士で地区統一の資料を作成し、児童生徒に配布する。
- ・ 司書教諭と連携し、図書室に「お弁当の日」のコーナーを作り、啓発する。